

阿智村事務事業評価シート

事務事業名	全村博物館構想	担当者	協働活動推進課	協働活動係
-------	---------	-----	---------	-------

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	全村博物館構想			
関連する主な計画等				
根拠法	阿智村全村博物館構想推進要綱			
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 補助金交付	<input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他
事業の対象者	全村民及び来訪者			
事業開始年	H20	<input type="checkbox"/> 時期不明	事業の終期	<input checked="" type="checkbox"/> 終期未定

②事務事業の計画(PLAN)、取組(DO)

実施目的	全村博物館構想は、「エコミュージアム」という考え方を取り入れて、全村を屋根のない博物館に見立て、地域資源を保存し、調査研究し、活用を目指すものである。この構想を通じて、足下の地域資源に目を向け、地域を再発見し、また、来訪者との交流を通じてその価値を再認識するなど、地域への愛着を育むことで地域づくりを推進する。					
具体的取組	認定地域資源と案内人登録の申請手引きを全戸配布し、全村博物館構想の新しい取組みとして具体的に事業展開を始めた。また、認定資源の地区案内看板の製作には横浜国立大学大原研究室と共同研究として取組み、看板設置についての周知・説明を自治会を始め団体等に実施。役場職員を中心とする全村博物館構想プロジェクトチームを立ち上げ、職員の意識高揚を図った。					
実績・効果	地域資源の登録は16件、案内人の登録は9団体・個人3人。地区案内看板は9つのコンテンツで構成し、村の基調色やロゴ・スローガンも入ったステンレス製を制作。伍和栗矢、浪合宮の原の2箇所を選定。プロジェクトチーム(9名)は、地域の資源をお宝として生かそうという全村博構想の趣旨から、地域資源を体験して、それらをどのように紹介していくかについて5回の会合と6回の取材を行い、「阿智を見る知るためのACHI-マニュアル vol.1」と題して冊子を作成。					
歳出の内訳(千円)	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	報酬	103	負担金	9		
	旅費	25				
	需用費	55				
	委託	500				
事業コスト	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実績額(千円)	1,544	309	692	5,027	1,351
	うち一般財源	1,544	309	692	3,651	1,351
	うち補助金				1,032	
	うち個人負担					
従事職員(人)	正規職員	1	1	1	1	1
	臨時職員					

③評価(CHECK)

区分	個別判定	判定理由	総合判定	
必要性	住民のニーズは高いか	b	認定地域資源を16件認定し、一定のニーズを認める	B
	手段、成果は妥当か	b	認定地域資源制度によって全村博の理解が図れると思われる	
	対象者の設定は妥当か	b	村民と来訪者の交流という観点から適切	
	村の関与は妥当か	b	地域の主体性を大事にしなが、村としても支援していく必要がある	
有効性	期待された効果が得られたか	事業の見える化としての取組みを始めた	B	
効率性	コストの削減に努めたか	b	全戸配付とした登録の申請手引きの作成は、単に印刷費のみにまで作り込んだ	B
	効率性を高める工夫はされたか	b	事業についての周知・説明を自治会を始め団体等に行い、また広報等を行った	
公平性	受益者負担は適切か	認定地域資源が波及することが重要 直接的な費用負担はない	B	
総合評価	B			

④改善(ACTION)

事業の方向性	継続・維持
課題	認定地域資源の認定、登録案内人の登録について、今後告知紹介、活用の取組支援、更なる認定を目指す。連動して、引き続き看板設置を増やすが、看板のより有効な活用(地域での利用・ホームページとの連携)を考えたい。
今後の取り組み	認定地域資源や看板設置等は、全村博の見える化、また、今後の全村博の展開に向けた土台づくりと考えている。引き続き、認定地域資源の応募や看板整備を進めるとともに、これらと結び付けたイベント(探訪ウォークなど)や告知(ホームページ等)により、地域資源を活用した地域づくりを活性化させ、全村博の目的を実現していきたい。